

創刊にあたって

本誌『稲盛和夫研究』は2020年8月8日に誕生いたしました「稲盛和夫研究会」の機関誌として刊行されるものです。この研究会は2018年の夏頃、京セラ株式会社稲盛ライブラリーから私（宮本）に次のようなご提案があったのを発端としています。

「稲盛ライブラリーは稲盛和夫の思想の継承と啓蒙にあたることを使命としており、稲盛に関するあらゆる資料を保管している。稲盛の企業家活動およびそれに対する大きな社会的関心を考えるとき、この資料は稲盛一個人あるいは京セラ社のために秘蔵すべきものではなく、広く社会で活用されるべきものと考えている。そのためには、まずこれらの資料を学術的見地から体系的に整理し、管理しなければならない。同時に、資料は保管するだけでは十分ではない。稲盛についてはこれまでも、学術研究、小説、論評など様々なものがあるが、その本格的学術研究は未だ不十分であると考えている。稲盛ライブラリーの資料を十二分に活用して、稲盛和夫研究を継続的に遂行する研究者組織を立ち上げることができるならば、稲盛ライブラリーとしてはこれを将来にわたってサポートしたい」

稲盛和夫名誉会長は昭和・平成時代はもちろん、日本の企業家の歴史に燦然と輝く存在であり、いま最も世界的に著名な日本の企業家であります。このような方が、ご自分の資料を広く社会に公開し、学術研究のために供したいとされたのは大変な英断であります。私は、これは企業家研究や企業経営研究、経営史研究にとって、またとない有り難いお申し出であると考え、稲盛和夫研究に関心を有している十数名の研究者の方にお声がけをいたしました。

その結果立ち上げることができましたのが、「稲盛和夫研究会」であります。発足に際して決議いたしました「研究会会則」において、研究会の目的は「稲盛和夫研究の深化を図り、企業経営ならびに社会の進歩発展に寄与することを目的とする」といたしました。

この創刊号では2020・21年両年度の当研究会の活動成果を収めています。すなわち、当研究会では「アーカイブ研究」「経営活動研究」「経営哲学研究」を3本柱として研究会を開くことにしていますが、各研究会での研究報告と、2021年夏に開催いたしました第1回公開シンポジウム「稲盛和夫研究にいかに関わり込むか」での研究報告、コメント、討論を収めています。2020・21年度はCOVID-19による様々な制約がありましたが、当研究会は上々の滑り出しをみせることができたと考えております。読者諸兄姉には研究会へのアドバイス、本誌へのコメントなど忌憚のないご意見をお寄せ下さいますれば幸いです。また、本誌は「稲盛和夫ならびに稲盛和夫に関係する人物・組織・事象をテーマとする未発表の研究成果」であれば、研究会の会員・非会員を問わず投稿できることになっておりますので、どしどしと研究成果をお寄せ頂き、本誌を稲盛和夫研究の権威ジャーナルに育てて頂きたいと願っております。

最後に、稲盛和夫名誉会長、京セラ株式会社、京セラ稲盛ライブラリーのご英断とご支援に深い敬意と謝意を表し、創刊の挨拶とさせていただきます。

2022年3月

稲盛和夫研究会会長

宮本 又郎（大阪大学名誉教授）